

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.265

2015年6月

スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウムを開催

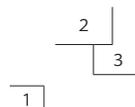


目次

●ニュース	
スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウムを開催	3
名誉教授称号授与式・懇談会を開催	4
第6回AC21学生世界フォーラムを開催	5
HeForShe キャンペーンパイロット事業「IMPACT10×10×10」に選出	5
「UBIAS インターコンチネンタル・アカデミア」サンパウロワークショップを開催	6
フライブルク大学とのジョイントフェロースHIPプログラムの共同実施に調印	6
下駄の鼻緒奨学金授与式を挙行	7
平成27年春の叙勲・褒章受章者が決まる	7
●知の先端	
熟議民主主義は自由民主主義を超えるか	8
田村 哲樹（大学院法学研究科教授）	
●知の未来へ	
次世代シーケンサーを用いた遺伝性疾患の原因解明	10
奥野 友介（医学部附属病院特任講師）	
●部局ニュース	
第21回名古屋ビジネスセミナーを開催	11
第30回企画展「めだかの学校」を開催	11
ICCAE2015年度第1回オープンセミナーを開催	12
第109回防災アカデミーを開催	12
減災館第6回特別企画展を開催	13
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年4月16日～5月15日	14
●INFORMATION	
平成27年度名古屋大学公開講座	16
●イベントカレンダー	18
●ちょっと名大史	
名古屋大学と空襲④―豊川キャンパスと過去のキャンパス―	20

スーパーグローバル大学創成支援事業 シンポジウムを開催





- 1 会場の様子
- 2 パネルディスカッションの様子
- 3 来賓あいさつをする松本国際企画室長

スーパーグローバル大学創成支援事業（Top Global University Project）シンポジウムが、5月13日（水）、豊田講堂において開催されました。本シンポジウムは、昨年度より始まった本事業に関する本学での初めてのシンポジウムとして開催され、550名を超える学内の教職員、学生が出席しました。

開会にあたり、松尾総長より、本事業が本学の掲げる目標の中核をなすものであり、来年度から始まる第3期中期目標・中期計画においても本事業を推進していくことは非常に重要な取り組みであるとのあいさつがありました。加えて、本学が世界に通用する屈指の大学（Top Global University）となるには、格段の成長をする必要があり、実施主体となる本学構成員全員が具体的な戦略と目標を十分理解し、意識を共有するために本シンポジウムを開催するに至った旨の説明がありました。

また、来賓として松本英登文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長からあいさつがあり、グローバル化の進展・少子高齢化による人口減少・生産年齢人口の減少などの問題に対して、政府及び文部科学省ではグローバル人材の育成・大学の国際化・大学の世界ランキングにおけるプレゼンスの

向上等を図る政策が、今まさに必要であると認識していることが述べられました。また、本事業は大学の国際通用性及び国際競争力の向上を図ることを目的としており、この事業の動向についてはメディア等にも多く取り上げられる

など、政府の代表的な取り組みとしての重要性が強調されました。

続いて、本事業の構想・実施責任者である國枝理事から本学の構想内容「21世紀、Sustainableな世界を構築するアジアのハブ大学」について、申請に至った背景や構想に含まれる4つの戦略及びその推進体制等について説明がありました。また、本学の5名の教員（藤巻副理事、粕谷英樹医学系研究科准教授、戸田山総長補佐、土井総長補佐、磯田副理事）から、それぞれ担当している4つの戦略及びその目標（アクションプラン）について詳細に説明が行われ、その後、会場の参加者と意見交換を行いました。

次に、今回招へいたインターナ



ショナルアドバイザーボード（IAB）のメンバーであるジョン・タプリン アデレード大学元国際担当副学長、グンタ・ノイハウス フライブルク大学副学長、モンテ・カセム立命館大学国際平和ミュージアム館長（元立命館アジア太平洋大学学長）及び二宮 皓比治山大学・同大学短期大学部学長の4名が登壇し、総長、理事を交えてのパネルディスカッションを実施しました。IABメンバーからは豊富な経験と高い見識をもって、本学の目標等に対して適切なアドバイスが述べられ、貴重な意見交換の時間となりました。

終了予定時間を超えてもなお質問者が途切れず、大盛況のシンポジウムとなりました。

名誉教授称号授与式・懇談会を開催



記念撮影



名誉教授の称号授与

名誉教授称号授与式が、5月8日(金)、豊田講堂第一会議室において挙行されました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方等に授与するもので、今回新たに47名(新制計1,203名)に授与されました。

授与式では、出席された30名の新名誉教授に、松尾総長から辞令書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をされたことへのお礼と、お祝いの言葉がありました。続いて、新名誉教授を代表し鮎京正訓名誉教授から謝辞がありました。

引き続き、シンポジオンホールにおいて、名誉教授懇談

会が約100名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨秋からの叙勲等受章者、役員・部局長の紹介に続いて、総長からあいさつとこの1年の本学の動き等について報告がありました。その後、現名誉教授を代表して森嶋昭夫名誉教授から近況報告及び大学への助言等があり、続いて、伊藤正之名誉教授の発声で乾杯が行われ、参加者は、終始和やかな雰囲気の中で懇談しました。

今回、新たに名誉教授の称号が授与されたのは、次の方々です。

学術研究・産学官連携推進本部	武田 穰	大学院工学研究科	石川 孝司	大学院環境学研究科	川邊 岩夫
国際教育交流本部	村上 京子	大学院工学研究科	黒田 新一	大学院環境学研究科	佐野 充
大学院文学研究科	加藤 國安	大学院工学研究科	香田 忍	大学院情報科学研究科	坂部 俊樹
大学院教育発達科学研究科	早川 操	大学院工学研究科	河本 邦仁	大学院情報科学研究科	神保 雅一
大学院法学研究科	鮎 京正訓	大学院工学研究科	小長谷 重次	大学院情報科学研究科	平田 富夫
大学院経済学研究科	安藤 隆穂	大学院工学研究科	杉原 正顯	環境医学研究所	小松 由紀夫
大学院経済学研究科	加藤 英明	大学院工学研究科	田中英 一	環境医学研究所	錫村 明生
大学院経済学研究科	金井 雄一	大学院工学研究科	辻本 哲郎	エコトピア科学研究所	田中 信夫
大学院経済学研究科	高桑 宗右門	大学院工学研究科	藤澤 敏治	エコトピア科学研究所	丹司 敬義
大学院医学系研究科	磯部 健一	大学院工学研究科	山下 博史	農学国際教育協力研究センター	浅沼 修一
大学院医学系研究科	上田 実	大学院工学研究科	山本 一良	発達心理精神科学教育研究センター	本城 秀次
大学院医学系研究科	大磯 ユタカ	大学院生命農学研究科	海老原 史樹文	発達心理精神科学教育研究センター	安田 道子
大学院医学系研究科	祖父江 元	大学院生命農学研究科	田中 利治	地球水循環研究センター	上田 博
大学院医学系研究科	古川 鋼一	大学院生命農学研究科	水野 猛	総合保健体育科学センター	島岡 みどり
大学院医学系研究科	河村 守雄	大学院国際言語文化研究科	井上 公	総合保健体育科学センター	西田 保
大学院医学系研究科	村手 隆	大学院国際言語文化研究科	前野 みち子		

(授与番号順、敬称略)

第6回 AC21学生世界フォーラムを開催

第6回 AC21 (国際学術コンソーシアム) 学生世界フォーラムが、4月19日(日)から24日(金)までの6日間、フランス・ストラスブール大学及びドイツ・フライブルク大学において開催されました。同フォーラムは、2年に1度、AC21のメンバー大学(現在19大学)において、主に学部生を対象として開催される AC21の主要なイベントです。



AC21運営委員会での記念撮影

6回目となる今回は、「地方・地域レベルの民主シーにおけるヨーロッパの知見」をテーマに開催され、18の大学から本学の学生4名を含む38名が参加しました。

最終日のファイナルディスカッション及び修了式は、フランスのオークニクスブル城で行われ、同フォーラム開催に合わせてフライブルク大学で開催された AC21運営委員会の参加者(メンバー大学の学長・副学長・国際担当職員等)も合流し、参加学生の素晴らしいプレゼンテーションに感銘を受けていました。

23日(木)と24日(金)の2日間、フライブルク大学で開催された AC21運営委員会では、AC21の運営等、様々な議題について話し合いました。なかでも、フライブルク大学のシーバー学長から、今後、メンバー大学間の研究協力や職員交流を通じて、より結びつきを強化していくこと、また、この AC21の成果を国際会議等での発表という形で積極的に発信していくことについて提案があり、活発な議論が行われました。今後、AC21メンバー大学間の交流のさらなる拡充・発展が期待されます。

HeForShe キャンペーンパイロット事業「IMPACT10×10×10」に選出

本学は、国連ウイメン (UN Women) の HeForShe キャンペーンのパイロット事業「IMPACT10×10×10」に「世界の10大学」として選出されました。

この事業は女性の地位向上に男性の協力・参加を呼び掛ける運動「HeForShe」キャンペーンの一環として行われ、世界の政府機関、高等教育機関、企業からそれぞれ10人の

リーダー(10団体)が選定されています。

今回、本学は、これまでの男女共同参画を推進する様々な施策、特に女性リーダー育成のための教育プログラムの実践や、女子学生、研究者が研究を続けるための支援、学内外における環境整備への取り組みの積極的な推進などが評価されての選出となりました。また、大学のリーダーとして、香港大学や英国のレスター大学、カナダのウォータールー大学などの学長が選出されています。

5月1日(金)には、広報プラザにおいて記者会見が行われ、松尾総長、昨年度より本事業の活動に中心的に取り組んでいる濱口前総長、東村副理事、岡田副理事をはじめ、国連ウイメン日本協会から渋谷典子理事、企業として本学の本事業への参加に賛同しているミックインターナショナル株式会社の九鬼綾子代表取締役が出席しました。会見の中では、今回の選出を受けて、本学が先進的に行っている男女共同参画の取り組みについて他大学・企業との連携を強化していくこと、また、学内での男女共同参画推進研究拠点の設置、本学の女性教員比率20%を目指すことなどが述べられました。



記念撮影(左から、渋谷国連ウイメン日本協会理事、九鬼代表取締役、濱口前総長、松尾総長、東村副理事、岡田副理事)

「UBIAS インターコンチネンタル・アカデミア」サンパウロワークショップを開催

「UBIAS（大学附属高等研究院国際連盟）インターコンチネンタル・アカデミア」サンパウロワークショップが、4月16日（木）から30日（土）の間、ブラジル・サンパウロ大学において開催されました。UBIASは、各大学の設置している高等研究院が、国際的な連携を深め、研究交流を促進することを目的として設立された組織です。また、「イ



レクチャーを行う國枝理事

ンターコンチネンタル・アカデミア」は、UBIASの次世代リーダーを育成する事業であり、本ワークショップ及び本学で来年3月に開催予定の名古屋ワークショップからなります。

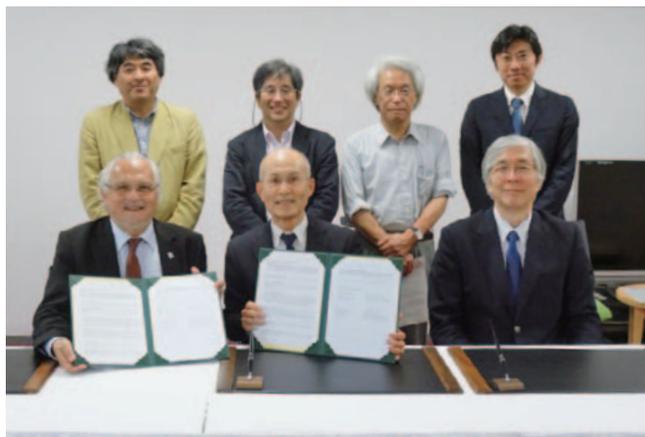
本ワークショップは、世界の各高等研究院からの推薦に基づき、中道範人トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授を含む13名の厳選された若手研究者で構成され、シニア研究者によるレクチャー等に参加しながら、テーマである「時間」について活発な議論を繰り広げ、共同研究の計画をまとめました。今後、文理融合的なアプローチを用いて、「時間」に関する従来の知を総括した上で、新たな研究の道を切り開く予定です。なお、「時間」をテーマとするMOOC（大規模オープン・オンライン・コース）の脚本もまとめる予定です。

シニア研究者として、本学からは國枝理事、近藤孝男理学研究科特任教授、和田高等研究院副院長が出席しました。國枝理事は、「天文学の時間」と題して、また、近藤特任教授は、「概日時計」と題して、講演を行いました。本ワークショップの詳細は以下のアドレスからご覧いただけます。

<http://intercontinental-academia.ubias.net/>

フライブルク大学とのジョイントフェロシッププログラムの共同実施に調印

高等研究院とフライブルク大学高等研究院とのジョイントフェロシッププログラム（グループ型）の共同実施に関する合意書の調印式が、5月14日（木）、理学B館5階の高等研究院談話室において挙行されました。調印は、國枝理事、グンタ・ノイハウス フライブルク大学研究担当副学長、篠原高等研究院長、バード・コートマンフ



調印後の記念撮影

ライブルク大学高等研究院長の間で執り行われました。

本プログラムは、両大学に在籍する研究者により組織される共同研究を進める研究グループに対して、相手大学における研究滞在、ワークショップや学会会議の開催、またジュニア研究者や大学院生の研究交流を支援するもので、助成期間は最大24カ月です。分野を問わず、独創的研究を推進するグループを対象とし、厳格なピアレビュープロセスを経て選出されます。両大学間の協力関係を更に強化させるとともに、両大学の強みを融合させながら、高等で独創的な学術研究の推進に貢献することが狙いです。

高等研究院とフライブルク大学高等研究院は長年、良好な協力関係を築いており、大学附属高等研究院国際連盟（UBIAS）において、共に重要メンバーとして指導的役割を果たしています。両院は、本プログラムの実施により、これまでの協力関係をより一層発展させる予定です。

なお、今回の公募の締め切りは、7月31日（金）（2016年1月1日（金）開始）となっています。詳細は高等研究院のホームページ（<http://www.iar.nagoya-u.ac.jp>）からご覧いただけます。

下駄の鼻緒奨学金授与式を挙

名古屋大学下駄の鼻緒奨学金授与式が、4月17日(金)、豊田講堂第5会議室において挙行されました。

下駄の鼻緒奨学金は、名古屋大学学術憲章の基本理念及び寄附者の意向に基づき、本学の学部又は研究科に在学する人物で、成績が優秀でありながら経済的な理由により修学が困難な学生に対して、その学修・研究等の活動を奨励



記念撮影

するために平成22年度に設立されたものです。

受賞者は奨学生4名(日本人学生2名、外国人留学生2名)で、授与式では奨学生採用通知書が授与されました。

奨学金選考委員長の國枝理事から、「学生時代に下駄の鼻緒を切りし困っていた本奨学金の寄附者に、下駄の鼻緒を譲り渡した通りがかりの女性がかけた、『お礼は自分ではなく次に困っている人に返してください』との言葉の通り、寄附者の理念を引き継ぎ、社会に還元していく精神、奉仕の精神、互いに助け合う精神を忘れずに、学業や研究に一層励んでいただきたい」と祝辞があり、受賞者は改めて奨学生としての自覚を深めました。

授与式終了後に行われた國枝理事、木保副総長及び奨学金選考委員会委員と受賞者との懇談会においては、終始なごやかな雰囲気の中で、勉学内容や研究内容、進路等について活発な意見交換が行われ有意義な会となりました。

平成27年春の叙勲・褒章受章者が決まる

—本学関係者7名が喜びの受章—

平成27年春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々を受章されました。

瑞宝章は、国家又は公共に対して功労のある方のうち、

公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与されます。

【叙勲】

[教育研究功労関係]

瑞宝中綬章

石橋 善弘 名誉教授(工学部)

瑞宝中綬章

齋藤 英彦 名誉教授(医学部)

瑞宝中綬章

道家 紀志 名誉教授(農学部)

瑞宝中綬章

真継 隆 名誉教授(多元数理科学研究科)

瑞宝中綬章

山内 脩 名誉教授(理学部)

[文部行政事務功労関係]

瑞宝小綬章

福島 忠彦 元事務局長

[学校業務功労関係]

瑞宝単光章

片岡 達治 元医学部・医学系研究科経理課
機械保守工

熟議民主主義は自由民主主義を超えるか

田村 哲樹 大学院法学研究科教授

私の研究テーマの一つは民主主義です。ひとくちに民主主義といっても様々なものがありますが、その中でも特に、「熟議民主主義」について研究しています。熟議民主主義とは、話し合いを通じてその参加者が意見・立場を考え直す（反省する）ことを重視する民主主義です。熟議では、発話者は他者にも受け入れ可能と思われる形で意見を述べ、聴き手はその意見を妥当と見なせば、自らの見解を見直します。その繰り返しの結果として、当初は異なる意見を持った人々の間での合意形成が期待されるのです。

熟議民主主義には、様々な疑問が提示されています。たとえば、「なぜ熟議なのか?」「なぜ多数決ではだめなのか?」といった疑問があります。また、「話し合って合意などできるのか?」「それは所詮理想論なのではないか?」という疑問もあります。私はこれまで、このような疑問に答えるべく研究を行ってきました。その一端は、拙著『熟議の理由』(勁草書房、2008年)、『語る』(編著)(風

行社、2010年)、『デモクラシーの擁護』(共著)(ナカニシヤ出版、2011年)などとして結実しています(写真参照)。私が論じてきたことは、現代の多元化する社会において熟議は必要であるし、単なる理想論でもない、ということです。

さて、現在の私の主要な関心は、この熟議民主主義を「自由民主主義」からいったん切り離して理解することは可能かということです。さらには、このように両者を切り離して理解することの意義は何かを考えることです。

自由民主主義とは、複数の政治勢力による選挙を通じた競争に基づいて選出された代表による民主主義(代表制民主主義)のことです。その前提は、政治が行われる「公的領域」と、そうではない「私的領域」とを区別することです。たとえば、家族は私的領域に属します。いわゆる社会主義体制の崩壊後、自由民主主義以外の選択肢は現実的ではないと見なされています。熟議民主主義の擁護者たちも、自由民主主義の中にどのように「熟議的な」要素を盛り込むかを考えてきました。市民社会における一般市民の熟議によって形成された意見を国家における代表・政治家による意思決定に接続するという議論は、その典型です。

しかし、自由民主主義が民主主義の唯一の考え方というわけではありません。私は、「自由民主主義における熟議民主主義」ではなく、熟議民主主義のいくつかのタイプの一つとして自由民主主義的なそれがあると思えることはできないか、と考えています。つまり、



熟議民主主義関係で刊行した著作(編著、共著を含む)

私は、自由民主主義と熟議民主主義との関係について、従来の理解を逆転させることを目論んでいます。どのようにすれば、それは可能なのでしょうか。

まず必要なことは、政治体制の構成要素を抽象化して考え直してみることです。既存の政治制度やアクターを自明視すると、自由民主主義の枠組の中でしか熟議民主主義を考えることができなくなります。実際、私たちの多くは、民主主義の仕組みと聞くと、とっさに選挙、政党、議会などを思い浮かべることでしょう。もちろん、このような想起が間違っているわけではありません。しかし、民主主義の仕組みが、必然的に私たちが知っているような選挙、政党、議会でなければならないのかどうかは、検討を要する問題です。自由民主主義的ではないが熟議民主主義的ではあるような、政治制度やアクターも存在するかもしれません。とりわけ、自由民主主義が定着しているわけではない国・地域における民主主義を考える場合には、このような発想がリアリティを持ち得ます。

こうして諸要素を抽象化してみると、次には、政治や民主主義が行われる単位を再考することもできるようになります。従来の政治学は、民主主義の単位を国家と見なしてきました。自由民主主義も国家という単位において構想されています。しかし、政治体制の構成要素を抽象化してみると、国家と国家以外の単位との共通性が見えてきます。

様々な民主主義の単位の中で、私が特に興味を持っているのは、家族あるいはより一般的に「親密圏」と呼ばれるものです。従来の政治学・民主主義論では、家族はほとんど研究対象となってきませんでした。なぜなら、家族は「私的な」領域

に属するものであり、国家や政府といった「公的な」領域で行われる政治とは関係がない、と考えられてきたからです。しかし、このような見方を修正することもできます。たとえば、「親しい」人々から成るはずの家族という単位にも、対立や紛争が発生し、問題解決の必要性が存在します。そうだとすれば、家族における熟議民主主義を考えることもできるはずで

す。それにもかかわらず、家族は、熟議民主主義研究でも、あまり研究対象となっていません。実際、ある海外の研究者に、家族における熟議に関心を持っていると言ったら、「随分変わったことに興味を持っているんだね」といった反応をされたことがあります。この話は、単に私がそのように受け取っただけかもしれません。しかし、家族も熟議民主主義の場として研究できることを示そうとする私の研究が、従来の熟議民主主義研究に対する異議申し立てにもなっていることは確かです。

その異議申し立ての先には、家族における熟議民主主義研究を通じた、自由民主主義の問い直しがあります。先に述べたように、自由民主主義は、公的領域と私的領域とを厳然と区別することによって成り立つものでした。民主主義や政治は公的領域において行われるものです。だから、政治学者は家族を研究してこなかったのです。家族における熟議民主主義という視点は、このような公私の区別に疑問を投げかけ、それゆえ、最終的には自由民主主義の再考を迫ります。家族は国家に比べると随分小さな単位です。しかし、そのような小さな単位に焦点を当てることを通じて、既存の学問の前提が見直されるのです。だからこそ、家族における熟議民主主義は、私にとって、とても魅力的なアイデアなのです。

1970年高知市生まれ。広島市で育つ。名古屋大学法学部卒業。同大学院法学研究科博士課程後期課程修了。博士（法学）。名古屋大学大学院法学研究科講師、准教授等を経て、2010年より現職。専門は政治学・政治理論。著書に『熟議の理由』（勤草書房、2008年）、『政治理論とフェミニズムの間』（昭和堂、2009年）、『政治理論とは何か』（共編）（風行社、2014年）などがある。学生時代には、名大バスケットボール部に所属し、主将も務めた。事実婚の妻との間に2人の子どもがおり、2002年に名大男性教職員で初めて育児休業を取得した。自ら「イクメン」であろうとするとともに、男性の家事・育児の重要性についての講演も行っている。

たむら てつき



次世代シーケンサーを用いた遺伝性疾患の原因解明

遺伝性疾患（遺伝病）は、遺伝子の異常が原因で起きる病気の総称です。遺伝性疾患の原因となる遺伝子を見つけることは、治療法の開発につながる重要な第一歩です。

ヒトのゲノムは30億塩基からなり、2万を超える遺伝子が存在します。そのため、従来は、遺伝性疾患の原因解明は大変でした。遺伝性疾患を抱える家系を手掛かりに、原因遺伝子がある場所を段階的に絞り込み、その領域にある遺伝子の塩基配列を1つ1つ解析するという手法は、短くて1年、長いと数年を要しました。この状況は、次世代シーケンサーの出現によって一転しました。従来のシーケンサーが解析できる塩基数は一度に数千塩基でしたが、次世代シーケンサーは一度に最大1兆塩基を解析します。言い換えますと、一度

に1つの遺伝子を解析するのがやっとだったものが、一度に数十人の、全ての遺伝子の塩基配列を解析できるようになりました。ヒトゲノム計画が完了したのは2003年ですが、当時は世界中が協力して、数年かかって一人のゲノムを解明していました。この驚くべき技術革新は、さまざまな遺伝性疾患の原因解明を加速させています。

私たちが解析した遺伝性疾患の一例を紹介します。先天性巨大血小板症は、血小板がうまく作られず、出血が止まりにくくなる、かなり稀な遺伝性疾患です。私たちは先天性巨大血小板症の家系を、次世代シーケンサーを用いて解析し、全ての遺伝子の配列を決定しました。その結果、6つの家系において、*ACTN1*という遺伝子に異常があることを発見しました（図1）。*ACTN1*遺伝子がコードする α -アクチニンは、細胞の骨格を作るアクチンフィラメントを束ねて、補強する蛋白です。この蛋白に異常が起きると、血小板を作る細胞（巨核球）がうまく機能しないことが、実験で確認されました（図2）。

遺伝子の網羅的解析が研究室レベルで簡単に行えるようになり、遺伝性疾患の原因解明は急速に進んでいます。後回しにされがちだった稀な遺伝性疾患も、この強力な方法の恩恵を受けられるようになりました。私たちもこの技術を用いて、さまざまな疾患の原因解明に貢献します。

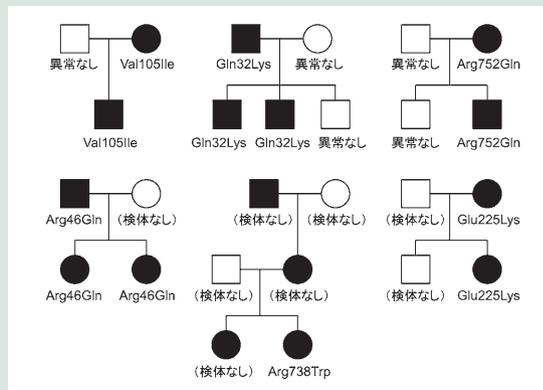


図1 *ACTN1*遺伝子に異常が見つかった6家系。見つかった変異を個人ごとに示す。巨大血小板症患者は黒塗りで表示。症状と遺伝子異常の分布は一致した。

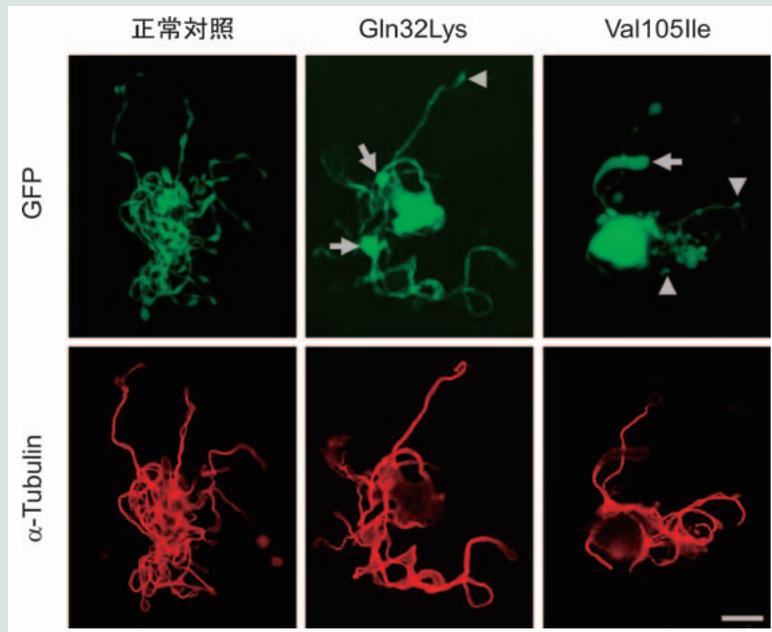


図2 見つかった遺伝子異常の機能解析。マウス巨核球に正常・異常 *ACTN1* を遺伝子導入し、血小板形成を観察した。正常 *ACTN1* を導入した巨核球では、比較的太さの揃った突起（この先端がちぎれて血小板になる）が見られた。対照的に、異常 *ACTN1* を導入した巨核球では、異常に太い突起（矢印）や、細い突起（矢じり）が観察された。

第21回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、4月14日(火)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第21回名古屋ビジネスセミナー「タックス・イーターを暴く!」を開催しました。この催しは、名古屋大学経済学部同窓会である一般社団法人キタン会と共同で行っており、今回は弁護士・経済評論家の志賀 櫻氏を講師に迎え



講演する志賀氏

ました。

かつて塩川正十郎財務大臣は「母屋（一般会計）では粥をすすっているのに、離れ（特別会計）ではスキ焼きを食べている」と国会で答弁しました。公共事業などの大規模予算を掠奪する手口はもはや初歩的であって、いまでは経済のアンダーグラウンド化を背景にした極めて巧妙かつ悪質な手口まで横行している状況にある、との指摘もあります。いわゆるタックス・ヘイブンを活用した国際的租税回避の問題は、その典型といえるでしょう。

志賀氏は財務官僚として税、国際金融に従事し、現在は税務訴訟専門弁護士として活躍する税のエキスパートです。講演では、予算、財政投融资、租税特別措置等々、税に関する様々な局面で暗躍し不公正に利益を得る者を「タックス・イーター」と名付けた上で、公開資料ではなかなか見えてこない影の部分に強烈な光を浴びせて問題を暴きました。こうした問題の解決には国民一人ひとりが関心を寄せる必要があること、また自身にまつわる税の使い道に関心を持たないと自分自身がタックス・イーターになりかねないとの志賀氏の指摘に聴衆は聴き入っていました。

第30回企画展「めだかの学校」を開催

●博物館

博物館では、2月17日(火)から5月9日(土)までの間、第30回企画展「めだかの学校－メダカ先生（山本時男）と名古屋大学のメダカ研究」を開催し、期間中6,580名の多数の来館者を迎えました。

メダカは日本ではなじみ深く、小学校の教科書にも取り上げられています。英語でも「MEDAKA」と表記され、



展示の様子

多くの系統が保存されているモデル生物です。故山本時男名誉教授（1906～1977）は、名古屋帝国大学の生物科創設時（1942年）に東京帝国大学から赴任しました。本学での27年間は、生物学教室の設立、戦争による疎開、新制大学設立などを経験しながら、多くの弟子である研究者と多くのメダカを育てました。山本名誉教授が「メダカさん」と呼んだ名大のメダカは、現在でも基礎生物学研究所から世界の研究者に供給が可能です。

今回の展示の特徴は、単に研究だけを紹介するのではなく、山本名誉教授の生い立ち、環境、交友など研究を生んだバックグラウンドから、メダカ学の現状までも展示したことです。展示に訪れた研究者からも「僕の理想の展示がここにあった」との感想がありました。

また、期間中の関連イベントとして「メダカ先生：山本時男備忘録と蓑虫山人」（宗宮弘明名誉教授）、「メダカの色はなぜ変わる」（橋本寿史生物機能開発利用研究センター助教）など計6回の特別講演が行われ、延べ543名の聴講者がありました。

ICCAE2015年度第1回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、4月28日（火）、農学部第2会議室において、2015年度第1回オープンセミナーを開催しました。講演者のロエル・スラルタ氏は、現在、フィリピン国立イネ研究所の主任研究員であり、大学院生命農学研究科に日本学術振興会外国人特別研究員として2年間招へいしています。



講演の様子

アジアには、灌漑施設を持たず不安定な降雨に頼ってイネを栽培する天水田が広範に存在し、アジアでのコメ増産を実現するためには、天水田における生産性の向上が鍵です。これまでの研究の多くは、天水田における低生産性の原因を主に土壌水分欠乏に求めてきましたが、最新の研究からは、土壌水分の変動（干ばつと湛水の繰り返し）も大きなストレスであることが示されています。ロエル氏は、このような土壌水ストレス条件下における作物の適応性と生産性維持には、根の可塑性が重要な形質であることを、自身の研究成果をもとに指摘し、今後の研究の方向性について議論しました。

第109回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、4月21日（火）、減災館において第109回防災アカデミーを開催しました。今回は建築構造家の金箱温春氏を講師に招き、「建築構造の安全を考える」と題して講演が行われ、一般市民、技術者、学生など88名の参加がありました。

講演では、建築を特徴づける美しさ、機能、経済性など



講演する金箱氏

に比べて安全性は一般の人にわかりにくいこと、絶対の安全はなく建物の様々な条件により性能のグレードが異なること、そのうえで安全性は建物にとって最も重要であり、専門家と社会の対話で実現すべきものであることなどが説明されました。また、主体構造に加えて、天井や外壁などの非構造部材も含めた建物全体の安全性の考え方が示され、最後に耐震性が十分でない建物の補強・改修について、最新技術や美しい構造デザインを導入した例が紹介されました。これらを通じて、一般の聴衆にも建築構造の重要性や魅力が伝わっていることが感じられました。

減災館第6回特別企画展を開催

●減災連携研究センター

減災館では、3月4日(水)から4月25日(土)の間、第6回特別企画展「東日本大震災とライフライン復旧・復興の取り組み」を開催しました。4年前の2011年3月11日に、東北の太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、この地震による津波は東日本の太平洋沿岸地域を襲い、沿岸の街に壊滅的な被害をもたらしました。また、



展示の様子（津波で被害を受けた道路標識）

被災地の復旧・復興には、電気・水道・ガスなどのライフラインの復旧が何よりも大切でした。

展示では、ライフラインの復旧・復興に焦点をあて、復旧に要した期間・人員・復旧プロセスを写真・動画・復旧に携わった人へのインタビューなどを通して紹介しました。津波で曲がってしまった道路標識、津波により被害を受けたものの、住民に地域の状況を伝えた石巻日々新聞による壁新聞なども紹介したところ、来館者からは、「テレビでは見たものの、その被害の大きさ、復旧の大変さを実感した」などのコメントが寄せられました。

なお、同特別企画展の実施に際しては、国土交通省、仙台市南蒲生浄化センター、仙台市水道局、石巻ガス、東北ガス、東北電力、NTTドコモなど、被災地の復旧に尽力する機関・企業等から資料の提供を受けました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
1 経済観測：現場の声に耳を傾ける時 丹羽宇一郎本学名誉博士	4.16 (木)	毎日 (朝刊)
2 情報通信研究機構の「宇宙天気予報」を大きく上回る規模の磁気嵐が起こり先月11年ぶりにオーロラが観測されたことについて専門家らが21日に本学で緊急会議を開き対策を協議する	4.16 (木)	読売
3 愛知県立大学法人理事長鮎京正訓本学名誉教授が就任あいさつのため中日新聞社を訪れた	4.17 (金)	中日 (朝刊)
4 山中宏二環境医学研究所教授は神経難病 ALS の進行にグリア細胞由来の TGF-β1 が関与していること突き止めた	4.17 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
5 本学は国内研究機関の引用数が多い論文ランキングで7位に入った	4.19 (日)	毎日 (朝刊)
6 松尾総長は中日新聞社社長小出宣昭氏との対談で本学の産学官連携や国際展開、人材育成などについて語る	4.20 (月)	中日 (朝刊)
7 松尾総長の入学式の式辞「真理の探究には研究者の強い信念とたゆまぬ努力が必要だ」が紹介される	4.20 (月)	日経 (朝刊)
8 太陽地球環境研究所は「宇宙嵐 (磁気嵐)」の予報を強化するためのネットワークづくりに乗り出す	4.20 (月)	中日 (夕刊)
9 学術書や家具 再利用が新しい 本学のリユース市について学生交流課の担当者は「卒業生から譲り受けた家具や家電を使うことで、新入生がリユースへの意識を高めるきっかけになっている」と語る	4.21 (火)	日経 (夕刊)
10 春の園遊会：21日 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が出席	4.22 (水)	毎日 (朝刊) 他5社
11 第35回 (2015年) 猿橋賞：鳥居啓子トランスフォーマティブ生命分子研究所主任研究者	4.22 (水)	中日 (朝刊) 他5社
12 太陽地球環境予測に関する緊急ワークショップ～3月17日の宇宙嵐を我々は予測できたか?～開催：21日 草野完也太陽地球環境研究所教授は「これを契機に、新しい研究ネットワークの構築につなげていきたい」と語る	4.22 (水)	読売
13 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は大阪府教育委員会が全国学力・学習状況調査の結果を、中学3年の内申点の基準づくりに活用する方針を固めたことについて「中学校のグレード分けになり、学習指導が学力調査の対策に偏ることにつながりかねない」と語る	4.22 (水)	朝日 (朝刊)
14 岩田 久本学名誉教授らが理事を務める NPO 法人「先端医療推進機構」が再生医療安全確保法に基づく認定再生医療等委員会の認可を受けた後、初の審査会を開いた	4.22 (水)	中日 (朝刊)
15 天野 浩工学研究科教授は文部科学省より文部科学大臣表彰を授与された	4.23 (木)	毎日 (朝刊)
16 2015日本建築学会賞 (業績部門)：名古屋大学キャンバスマネジメントによる創造的再生	4.23 (木)	毎日 (朝刊)
17 第56回名大カフェ「もっと遠くへ、宇宙大航海時代と次世代宇宙推進ロケット」開催：27日 岩川 輝工学研究科助教が小惑星探査機「はやぶさ」に搭載されたイオンエンジンの次を担う技術について講演	4.23 (木)	読売
18 名古屋市教育委員会生涯学習推進課 大学連携キャンパス講座 達人 (研究者) と話そう 祝・ノーベル賞：本学の教授など4人の研究者が、鉱物・岩石、青色LEDの誕生・意義・未来などのテーマで語る	4.23 (木)	読売
19 名古屋大学・東北大学・京都教育大学 春のマンドリン合同演奏会開催：5月3日	4.23 (木)	中日 (朝刊)
20 外科医山口 勇氏名古屋帝国大学附属医学専門部卒業生の警察医としての活動が紹介される	4.23 (木)	中日 (夕刊)
21 丸山大輔トランスフォーマティブ生命分子研究所特任助教らの研究グループは植物の細胞融合の新たな仕組みを発見	4.24 (金)	中日 (朝刊) 読売
22 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：5月30日 天野 浩工学研究科教授と横浜薬科大学長江崎玲於奈氏が講演と討論を行う	4.25 (土)	読売
23 ひと：女性科学者に贈られる第35回猿橋賞に選ばれた 鳥居啓子トランスフォーマティブ生命分子研究所主任研究者	4.25 (土)	毎日 (朝刊)
24 SAM 日本チャプター創立90周年記念講演会開催：24日 豊田章一郎全学同窓会会長が講演	4.25 (土)	中日 (朝刊)
25 医学部附属病院で歌手の谷本賢一郎さんのミニコンサートが開かれ、入院中の子どもたちを励ました	4.25 (土)	中日 (朝刊)
26 名城大学ノーベル賞受賞記念講演会開催：25日 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が講演	4.26 (日)	読売 他3社
27 新聞わーくシート：芦苜基生生物機能開発利用研究センター教授の遺伝子技術を活用し途上国の食料問題に挑む研究が、東京書籍の中学校1年の理科の教科書に取り上げられた	4.26 (日)	中日 (朝刊)
28 赤崎 勇本学特別教授が京都大学から名誉博士号を授与されることが決まった	4.28 (火)	毎日 (朝刊) 読売
29 気候変動交渉の到達点とパリ合意の展望 高村ゆかり環境学研究科教授	4.28 (火)	日刊工業
30 地域連携でモノづくり 2014年11月に締結したナショナルコンポジットセンター、岐阜大学複合材料研究センター、金沢工業大学革新複合材料研究開発センターによる連携協定が取り上げられる	4.28 (火)	日刊工業
31 第30回博物館企画展めだかの学校ーメダカ先生 (山本時男) と名古屋大学のメダカ研究ー特別講演会「メダカの色はなぜ変わる」開催：5月9日 橋本寿史生物機能開発利用研究センター助教が講演	4.28 (火)	中日 (朝刊)
32 藍綬褒章：トヨタ自動車株式会社社長内山田竹志氏本学卒業生	4.28 (火)	日刊工業 他2社
33 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が国会を訪れ、衆議院議長及び参議院議長と懇談	4.28 (火)	静岡新聞
34 春の叙勲：瑞宝中綬章 石橋善弘本学名誉教授、齋藤英彦同名誉教授、道家紀志同名誉教授、眞継 隆同名誉教授、山内 脩同名誉教授 瑞宝小綬章 福島忠彦元事務局長 瑞宝単光章 片岡達治元本学職員	4.29 (水)	中日 (朝刊) 他4社
35 浜松科学館で天野 浩工学研究科教授に贈られたノーベル賞メダルのレプリカの展示が29日からはじまった	4.30 (木)	静岡新聞
36 中日新聞「リンクト」：HUMAN'S EYE 教育は、未来を創り出す最大の道具 松尾総長	4.30 (木)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
37 2015年「国際光年」記念式典：21日 天野 浩工学研究科教授が講演	4.30 (木)	日刊工業
38 飯島澄男本学特別招へい教授らが欧州発明家賞の候補者であると発表される	5. 1 (金)	日刊工業
39 竹田美和本学名誉教授が教育学部附属中・高等学校で青色発光ダイオード (LED) の研究の舞台裏を講演	5. 1 (金)	中日 (朝刊)
40 ウェルビーイング in アジア実現のための女性リーダー育成プログラム国際シンポジウム「アジアにおける女性のリーダーシップの推進」開催：19日	5. 1 (金)	朝日 (朝刊)
41 18きっぷ：240日かけ世界一周へ 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校生	5. 1 (金)	朝日 (朝刊)
42 第68回中日文化賞 受賞者の業績と横顔：青色発光ダイオード (LED) の実現 天野 浩工学研究科教授	5. 3 (日)	中日 (朝刊)
43 病院の実力：呼吸器の病気 医学部附属病院の治療実績が上げられる	5. 3 (日)	読売
44 池上彰の大岡山通信 若者たちへ→43：名城大学で行われた赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授のノーベル賞受賞記念講演会の様子	5. 4 (月)	日経 (朝刊)
45 創造性の育成塾：天野 浩工学研究科教授が授業を行う	5. 4 (月) 5. 9 (土)	読売 中日 (朝刊)
46 備える3.11から 災前の策 第115回想定シリーズ⑭企業のBCP：山崎雅人減災連携研究センター寄附研究部門助教 まず優先事項を決めて	5. 4 (月)	中日 (朝刊)
47 第17回 ICT キャンパス：名古屋大学 e ラーニングシステム「NUCT」を全学展開	5. 4 (月)	教育家庭新聞
48 天野 浩工学研究科教授らはシリコンを基板に使ったレーザーの開発に成功し、企業と協力し2020年ごろの実用化を目指す	5. 5 (火)	日経 (朝刊)
49 「卓越研究員」 試行版が始動 コンソーシアム参加機関の1つとして本学が取り上げられる	5. 5 (火)	日刊工業
50 本学は国連ウィメンが進める男女共同参画推進事業「HeForShe」キャンペーンで世界の手本となる大学に日本で唯一選ばれた	5. 6 (水) 5. 8 (金)	中日 (朝刊) 他2社 日経 (朝刊) 日刊工業
51 現場から：大学の学び直し講座人気 本学の航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座が取り上げられる	5. 6 (水)	中日 (朝刊)
52 第1回地球教室・ナゴヤで化石をさがそう開催：23、24日 参加者募集	5. 6 (水)	読売
53 野口 巧理学研究科教授は日本、中国、ドイツの研究者が植物の光合成で重要な働きをする物質とよく似た化合物を作ったと発表したことについて「人工光合成の実現に向けて非常に大きな一歩と言える」と語る	5. 8 (金)	読売
54 顔：女性科学者に贈られる「猿楽賞」に決まった 鳥居啓子トランスフォーマティブ生命分子研究所主任研究者	5. 8 (金)	読売
55 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らはほ乳類の体内時計のリズムを変える新しい分子を発見	5. 9 (土)	中日 (朝刊)
56 教育学部附属中・高等学校は大学と連携しスーパーグローバルハイスクールとして様々な分野で国際的課題の研究などを行うと取り上げられる	5. 9 (土)	読売
57 豊田合成株式会社主催で2014年ノーベル物理学賞を記念し「赤崎教授・天野教授講演会」開催：6月10日	5. 9 (土) 5.13 (水)	読売 日刊工業
58 戦跡を撮る：太陽地球環境研究所豊川分室敷地内に残る 豊川海軍工廠	5. 9 (土)	毎日 (朝刊)
59 ドクター井口のほのぼのクリニック：99歳母が逝き「売るに売れない」生家 愛知淑徳大学教授井口昭久氏元本学教授	5. 9 (土)	毎日 (朝刊)
60 東レ株式会社は経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が会長を退任するとともに野依良治本学特別教授が社外取締役就任に就任する人事を発表	5. 9 (土)	毎日 (朝刊) 他2社
61 周藤芳幸文学研究科教授はドイツ考古学者シュリーマンの没後、トロイ遺跡の発掘や研究を担った考古学者に受け継がれてきた研究書が天理大学附属天理図書館に保管されていることが分かったことについて「研究者の手を次々と経て、今に伝わっていることは非常に興味深い」と評価した	5.10 (日)	日経 (朝刊)
62 研究炉停止1年 原発 実習に大学苦慮 文部科学省の補助金を受け、本学や九州大学の原子力関係学科の学生は合同で韓国の大学まで出向いて実習	5.11 (月)	毎日 (夕刊)
63 本学と大阪市立大学、全国の病院など10機関でつくる共同研究グループは、「新生児低酸素性虚血性脳症」をへその緒の血液に含まれる幹細胞で治療する臨床研究を倉敷中央病院で開始	5.12 (火)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
64 訃報：松尾 稔元総長	5.12 (火)	中日 (朝刊) 他5社
65 電源構成を問う：再生エネの目標低い 高村ゆかり環境学研究科教授	5.12 (火)	毎日 (朝刊)
66 第110回防災アカデミー開催：21日 田代 喬減災連携研究センター寄附研究部門准教授	5.12 (火)	中日 (朝刊)
67 本学と高知大学などのチームは、宝永地震に匹敵する巨大地震が、過去約7300年の間に6回発生していたことが分かったと発表	5.14 (木)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
68 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授②：第三の視細胞 時刻合わせの光センサー	5.14 (木)	中日 (朝刊)
69 「心の発達支援研究実践センター」改組記念行事“心の発達とつながり～よりよく生きる～”開催：23日	5.14 (木)	朝日 (朝刊)
70 経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が韓国の朴槿恵大統領と会談	5.14 (木)	読売
71 書籍「草原と都市」鈴木康弘減災連携研究センター教授著 本学がモンゴル国立大学と共同で計画しているレジリエンス共同研究センターの取り組みなど	5.14 (木)	中日 (朝刊)

平成27年度名古屋大学公開講座

■全学企画

テーマ：秩序と渾沌

開催日時：平成27年8月18日(火)～10月15日(木)の火・木曜日の全15回
午後6時～午後7時30分

会場：ES総合館 ESホール

募集定員：200名

応募資格：満18歳以上の方

受講料：9,460円

申込期間：平成27年6月22日(月)～7月21日(火)

申込・問い合わせ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-747-6584

(日程につきましては、社会連携課までお問い合わせください。)

平成27年6月1日現在

テーマ	講師
日本語七変化 秩序と渾沌のはざままで	文学研究科 宮地 朝子 准教授
学校におけるスポーツ活動の陰－運動部活動や運動会で何が起きているか	教育発達科学研究科 内田 良 准教授
現代政治における秩序と混沌	法学研究科 小野 耕二 教授
高度経済成長と公害	経済学研究科 小堀 聡 准教授
ナノ空間から生まれる電子機能－分子でつくる2次電池や太陽電池	理学研究科 阿波賀邦夫 教授
秩序と混沌－植物の環境と遺伝子発現－	生物機能開発利用研究センター 芦苺 基行 教授
アジアの法と社会：インドネシアの事例から	国際開発研究科 島田 弦 教授
つながり方の数学	多元数理科学研究科 永尾 太郎 教授
マイノリティ状況と共生秩序：フランス語圏サブカルチャーにおける差異をめぐるせめぎ合い	国際言語文化研究科 田所 光男 教授
意思決定における規則性とその乱れ	環境学研究科 大平 英樹 教授
見つけやすいもの、見つけにくいもの：秩序が背景にあるときと、秩序だった形が目立つとき	情報科学研究科 川合 伸幸 准教授
米国に22年間滞在して感じたこと	創薬科学研究科 福山 透 特任教授
太陽面爆発の科学：太陽で起きている「秩序」の崩壊過程を探る	太陽地球環境研究所 増田 智 准教授
未定	工学研究科 天野 浩 教授※

※天野 浩教授の講義については、9月6日(日)開催予定の名大レクチャー(豊田講堂)での講演を15回の中の1回とします。

■ラジオ公開講座

テーマ：秩序と渾沌

開催期間：平成27年7月5日(日)～9月6日(日) 毎週日曜日午前11時～午前11時30分

放送局：東海ラジオ放送(1332KHz)

問合せ先：研究協力部社会連携課「公開講座」係 TEL：052-747-6584

■部局企画

平成27年6月1日現在

日程	講座名等〔主催者〕	会場	定員	受講料	問い合わせ先
7/18(土) 13:00~16:00	第14回 Jr. サイエンス教室 〔遺伝子実験施設〕	理学部 G 館 1 階生物実習室 (113号室)	20名	無料	Jr. サイエンス教室担当係 E-mail : jr-sci@gene.nagoya-u.ac.jp
7月中の土曜日に 開催予定 13:00~17:00	地球水循環研究センター公開講演会 「ふたたび雲をつかむ話」 〔地球水循環研究センター〕	名古屋大学内を予定	100名程度 (事前申込み 不要)	無料	研究所事務部総務課総務第二係 TEL : 052-789-3466
8/1(土)~8/2(日) (2日間同一コースを受講) 10:00~16:00	公開実験講座2015 「バイオサイエンス・バイオテクノロジー を体験する」 〔生物機能開発利用研究センター〕	生物機能開発利用研究センター 及び理農館の各研究室	15名 (応募者多数の 場合には抽選)	2,500円	生物機能開発利用研究センター事務局 TEL : 052-789-5194 (月・水・金 : 10:00~17:00) 又は、TEL : 052-789-5838 (月~金 : 9:00~16:00)
夏 (アゴラ) 8/5(水)~8/7(金) (総合演習日) 8/24(月) 秋 (公開講座) 10/10(土)、10/24(土)、 10/31(土) (講座別発表) 11/21(土) 9:30~17:00	2015年度数学アゴラ 夏季集中および秋季公開講座 〔愛知県教育委員会、 名古屋市教育委員会、 岐阜県教育委員会、 三重県教育委員会、 日本数学会〕	多元数理科学棟509号室	約100名	無料	愛知県立高校以外の人 : 名古屋大学大学院 多元数理科学研究科教育研究支援室数学アゴラ係 TEL : 052-789-5994 愛知県立高校の生徒 : 愛知県「知の探究講座」 TEL : 052-954-6786
8/22(土)~8/24(月) 10:00~17:00	第24回公開セミナー 「天文学の最前線」 〔名古屋大学、名古屋科学館〕	名古屋科学館 および 名古屋大学	300名	学生500円 一般1,000円	理学研究科素粒子宇宙物理学専攻 天体物理学研究室 TEL : 052-789-2839 インターネットもしくは往復はがきによる。 上記に問い合わせただけか、 http://www.ncsm.city.nagoya.jp/study/astro/seminar/ をご覧ください。
平成27年8月予定 10:00~17:00	第2期高大連携・ものづくり公開講座 (第10回) 〔工学研究科創造工学センター〕	工学研究科創造工学センター (IB 電子情報館北棟10階)	10名	400円 (傷害保険料) +部品代 (予定)	工学研究科創造工学センター TEL : 052-789-3788 E-mail : frontdesk@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp
9/12(土)、9/26(土) 10/3(土) (土曜日開催 全3回) 14:00~16:00	柔道寝技教室 〔総合保健体育科学センター、 名古屋大学柔道部〕	第4体育館	30名程度	無料	瓜谷 章 (柔道部部长、工学研究科教授) TEL : 052-789-3797
平成27年9月~ 平成28年3月の土曜日 (7回程度) 10:00~12:00	オープンカレッジ 自由奔放サイエンス 〔経済学研究科 エクステンション・サービス 後援 : 一般社団法人キタン会 (名古屋大学経済学部同窓会)〕	経済学部 カンファレンスホール	300名	無料	E-mail : ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp (経済学研究科エクステンション・サービス) TEL : 052-783-8900 FAX : 052-783-8905 (キタン会)
平成27年9月予定	先端技術公開セミナー 〔情報科学研究科〕	未定	100名程度 (事前申込み不要)	無料	情報科学研究科広報渉外委員会 担当 庶務係 TEL : 052-789-4716 E-mail : gsis@is.nagoya-u.ac.jp
平成27年9月予定	基盤研究公開セミナー 〔情報科学研究科〕	未定	100名程度 (事前申込み不要)	無料	
10/8(木)、10/15(木) 10/22(木)、10/29(木) 11/5(木)、11/12(木) 11/19(木) (毎週木曜日 全7回) 18:30~20:00	新時代の国際協力 〔国際開発研究科〕	国際開発研究科8階 多目的オーディトリウム	50名	無料	文系総務課総務グループ (国際開発) TEL : 052-789-4952
11月14(土) 13:30~16:15	平成27年度 鶴舞公開講座 「家族のきずなで健やかに生きる」 〔医学部医学科、医学部附属病院、 名古屋大学医師会〕	中央診療棟3階講堂	200名	無料	医学部・医学系研究科総務課総務係 TEL : 052-744-2040 FAX : 052-744-2785 E-mail : iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp
平成28年3月予定 10:00~16:30	第2期高大連携・ものづくり公開講座 (第12回) 〔工学研究科創造工学センター〕	工学研究科創造工学センター (IB 電子情報館北棟10階)	10名	400円 (傷害保険料)	工学研究科創造工学センター TEL : 052-789-3788 E-mail : frontdesk@cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp
未定 13:00~17:00	第15回遺伝子実験施設公開セミナー 〔遺伝子実験施設〕	未定	参加自由	無料	遺伝子実験施設事務局 TEL : 052-789-3086

※各公開講座については、<http://www.nagoya-u.ac.jp/international/lecture/open-lecture/> に最新情報を掲載しています。

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**4月1日(水)～6月25日(木)、
7月6日(月)～10月30日(金)**

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日、8月13日～16日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示

テ ー マ：「鳴き声と写真で知る名大の野鳥」
(4/1～6/25)

「ムシの世界—名古屋大学博物館の
昆虫標本と切り紙と博物画」(7/6～10/30)



5月26日(火)～9月26日(土)

場 所：博物館2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、8月13日～15日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」

[関連特別講演会]

8月1日(土)

場 所：博物館3階講義室

時 間：13:30～15:00

講演題目：「チェレンコフ望遠鏡で探る宇宙線のふるさと」

講 演 者：田島宏康 (太陽地球環境研究所教授)

参 加 費：無料



6月10日(水)～9月30日(水)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00 (平日)

(8/10～9/30は9:00～17:00)

13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、

8月8日、13日～15日、22日、
25日～31日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

附属図書館医学部分館ミニ展示会 「伝染病と闘ってきた」

一虎列刺 室弘私 痘瘡 實布埒利亞 黒死病 そして一

内 容：医学部史料室 (附属図書館医学部分館4階) に所蔵する史料の
中から、「伝染病予防法」施行前後の人間と伝染病との歴史に
関連する古医書、掛図などを展示公開する

[関連特別講演会]

7月10日(金)

場 所：医学部基礎研究棟1階会議室2

時 間：14:00～15:30

講演題目：「わが国の疫病 (伝染病) 流行とその社会的衝撃」

講 演 者：青木國雄 (本学名誉教授)

参 加 費：無料



6月18日(木)

場 所：減災館1階減災ホール

時 間：13:30～17:30

定 員：100名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

第4回減災連携研究センターシンポジウム

講演題目：「巨大地震の前に考える (その1) 建築耐震」

講 演 者：福山 洋 (減災連携研究センター客員教授)、
梶原浩一 (同客員教授)、他

内 容：減災連携研究センターの活動報告、他

6月24日(水)

場 所：減災館1階減災ホール

時 間：18:00～19:30

定 員：100名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

第111回防災アカデミー

講 演 者：関澤 愛氏 (東京理科大学教授)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月27日(土)、7月11日(土)

場 所：理農館 3階335号室

時 間：10:00～15:00

対 象：博士課程学生、ポスドク

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

ビジネス人材育成センター

平成27年度後期 B 人セミナー

テ ー マ：「博士の就活スタート・リスタート

ー社会からの評価と自己評価・私らしい未来を獲得するためにー、

「医療機器業界の現状とこれから」(6/27)

「ファイナンシャルプランについてーライフプランに即した資金計画ー」、

「外資系企業とは？メディカルリエゾンとは？」(7/11)

6月28日(日)

場 所：医学部附属病院中央診療棟
3階講堂

時 間：14:00～16:10

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科学務課 052-744-1981

東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

平成27年度市民公開講座「子どものがん」

講演題目：「深めよう親子の絆ーがんと伝えることの大切さ」

講 演 者：伊藤麻子（医学部附属病院副看護師長）

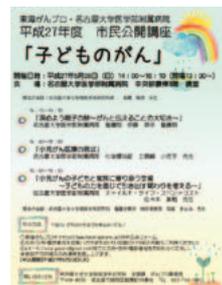
講演題目：「小児がん医療の現状」

講 演 者：土居崎小夜子（医学部附属病院医員）

講演題目：「小児がんの子どもと家族に寄り添う支援

ー子どもの力を信じて引き出す関わりを考えるー」

講 演 者：佐々木美和（医学部附属病院チャイルド・ライフ・スペシャリスト）



7月4日(土)～25日(土)、

7月24日(金)～9月5日(土)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、8月13日～15日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館スポット展示

テ ー マ：「第四紀における人類の進化と文化」(7/4～25)

「鈴木五郎 陶器と石の融合アート」(7/24～9/5)

7月25日(土)、8月29日(土)

場 所：博物館 2階実験室、展示室、
東山キャンパス

時 間：10:00～15:30

定 員：各21名

対 象：小学5年生以上、一般

参 加 費：50円（保険料）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

ミクロの探検隊®

「名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう！」

テ ー マ：「観察園のムシⅠ」(7/25)、「観察園のムシⅡ」(8/29)

内 容：本学構内で各自ムシを採集し、実体顕微鏡、走査型電子顕微鏡
を使用し微細構造の観察をしながら分類や働きを学ぶ



【お詫びと訂正】

名大トピックス264号（2015年5月発行）で以下の誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

23ページ・新名誉教授のことばにおいて、氏名に誤りがありました

【誤】上段 武田 穂 【正】上段 武田 穂

名大トピックス No.265 平成27年6月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

第81回東海陸上競技対校

選手権大会（陸上部）

（平成27年5月16日）



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

（<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>）でもご覧いただけます。

158 名古屋大学と空襲④ — 豊川キャンパスと過去のキャンパス —

「名古屋大学と空襲」の最後は、これまで取り上げた鶴舞・大幸・東山以外の現在及び過去のキャンパス、あるいは名大の前身学校についてみてみましょう。

現在の豊川キャンパス（太陽地球環境研究所豊川分室）については、詳しくは「ちょっと名大史89 豊川キャンパスと豊川海軍工廠」に譲りますが、当時の同キャンパスは軍直属の軍需工場としては東洋一といわれ、最大時5万人以上が働いていたとされる豊川海軍工廠の一角にあたります。敗戦直前の1945(昭和20)年8月7日、同工廠を直接の目標とした大空襲に遭って一夜にして壊滅、動員学徒を含む2,500人以上の死者を出した悲劇が知られています。

当時、名古屋帝国大学工学部の仮校舎があった西二葉地区（現在の県立明和高校の辺り）も大きな空襲による被害をうけました。東山地区と同日の1945年5月14日に空爆を受け、建物の焼失率は75%に及びました。

また、旧教養部の前身にあたる第八高等学校（1964年まで名大瑞穂地区、現在の名市大滝子キャンパス）は、1945年3月の3回に及ぶ空襲により、建物のほとんどを失いました。敗戦後は、知多郡河和町（現在の美浜町）の海軍航空基地の跡地への移転をよぎなくされています。ただ経済学部の前身にあたる名古屋高等商業学校（1959年まで名大桜山地区、現在の名市大桜山キャンパス）は、八高のすぐ近くであったにもかかわらず、建物の1割程度を焼いたのみで、被害は比較的軽微でした。

そのほか、敗戦直前の1945年4月に設置された、教育学部の前身にあたる岡崎高等師範学校は、第1回生の入学式を挙げてまもなくの同年7月20日、岡崎空襲に巻き込まれて校舎のほとんどを焼失してしまいました。

こうしてみると名大は、太平洋戦争末期の空襲にきわめて深い関係を持つ大学であるといえるでしょう。



1	3	4
2	5	

- 1 黒い線で囲った所が豊川海軍工廠の敷地、その中の赤い線で囲った所が現在の豊川キャンパス。©2015 Google—地図データ©2015ZENRIN
- 2 西二葉地区の名帝大工学部電気学科の実験室。もともと空襲前に研究機材等は疎開あるいは地下への埋蔵がほぼ完了していた。
- 3 空襲後の八高。焼け残った正門の向こうに建物が全く写っていないことが分かる。
- 4 名高商の事務文書（大学文書資料室所蔵）。空襲被害が軽微であった名高商は、戦前期の事務文書が大量に残っている。これに対し八高の事務文書は、空襲で焼失したためかほとんど残されていない。
- 5 岡崎高等師範学校（岡崎市明大寺町、現在ここには愛知教育大学附属岡崎中学校がある）。敗戦後、豊川市に移転し、同校が名大に包括された後は、1965年まで名大豊川地区（豊川分校（教養部）、のち農学部附属農場）となった。現在ここには県立豊川工業高校がある。

